

しあわせ

12 月 号



そなた、
そのように偽物に力を
入れずともよいではないか。

(利井鮮妙和上)

「手を合わす母」

新型コロナにウクライナ問題、そして旧統一教会騒ぎ、さらに円高に物価高。大混乱の一年となった今年も早や、師走を迎えた。

あらためて平常ということの有難さを思い知らされた一年となった令和四年、二〇二二年であった。

平常、普通、当たり前が、実は不思議なことであり有難いこと、有ること難し、驚くべきことであったと気付かされた。そういう意味では、平和ボケ、何事も当たり前になった現代人への大きな警鐘を与えてもらった貴重な一年ともいえる。

諸行は無常であり、諸法は無我、自分の存在そのものがまず、驚きをもってわが心に響いてきた。

「天上天下 唯我独尊」天にも地にも我という命はただひとつ、かけがえのない命であること。

無限の広がりを持つ大宇宙、永遠の歴史の中で今ここに貴重な時間と一瞬の時を恵まれたわが命の不思議に感動しよう。一年の締めくくりに。

法座案内

△報恩講法要▽

十二月 十一日(日) 昼席

十二月(月) 朝席・昼席

講師 浅田惠真 和上

(本願寺派勧学)

△法味の会▽

十二月 二十三日 午前十時

お話し 自坊住職

※本堂内は常時換気しておりますが、参拝の際は、検温・マスク着用をお願い致します。

府中町山田二丁目一五十三

栢原山 龍仙寺

電話(〇八二二八)一四八二



今月は明治期に活躍された利井鮮妙（かがいせんみょう）和上の言葉を味わいます。和上のおられた高槻の常見寺では、毎年、報恩講には、多くのお同行が集まってこれ、お通夜で座談会をして親鸞聖人のご遺徳を偲んでおられました。ある年、とある有名な布教使さんが参ってこれ、報恩講の座談会のかなで意を決したように口を開かれました。

「和上、このたびこそと思い、参らせていただきます。ご承知のように私は布教使として日々、親鸞聖人のみ教えをお伝えさせていただいておりますが、まことに恥ずかしいことに、私自身がどうしてもみ教えの通りに思いとることができません。和上、私はどうすればご信心をいただけるでしょうか。」

高名な布教使だったその方の、まさしく覚悟の告白を受けて、和上は問われました。

「そうであったか。では、そなたはいつも、どのようなみ教えをお伝えしておるのだ。」

「はい、それは和上からつねづねお聞かせいただいている通りでございます。ただ阿弥陀さまのご本願のひとりばたらきによって、浄土に生まれ、仏のさとりを開かせていただくのだとお伝えさせていただいております。」

「それはまさしくご開山さま（親鸞さま）のみ教えだのう。では、そなたは、そのみ教えのどこかに間違いがあると思うのか。」

「いえ、ご開山さまのみ教えには、間違いがあるはずはありません。」

「ほう。み教えはまことじゃと思っておるのだな。では問題はないではないか。」

「ですから、わたし自身がどうしても、そのみ教えの通りに思いとれないのです！」

「ほう。では、間違いのないみ教えをその通りに思いとれないという、それは何ものだ。」

「はい、それはわたしの心です。」

「その心は、本物か、偽物か。」

「わたしの心は偽物に決まっております！」

つい自分の心は「偽物」と答えてしまったその方に、鮮妙和上は微笑んで仰いました。

「そなた、そのように偽物に力を入れずともよいではないか。」

その一言に布教使さんは手を叩いて喜び、

「ああ、有難いお言葉をお聞かせいただいた」と、夜が明けると帰って行かれたそうです。

親鸞さまのみ教えは、仏さまの仰せを聞く、ここに尽きています。阿弥陀さまはたった一つの条件もつけず、仏さまの方から「そのまま来い」と喚び続けてくださっています。それが「南无阿弥陀仏」のおいわれでした。なぜ阿弥陀さまは「そのまま」と仰っているのか。それは、何か一つでも条件がつけば漏れてしまう、まことと呼べるものが何一つない凡夫のためでした。偽物だらけのこの身に、仏さまの仰せという真実が届いている。そうお聞かせいただいたなら、偽物に力を入れなくてもよい。そう和上は仰ったのですね。

先日、お参りから戻ってから、法衣のままで一歳半の長男をみていたときのことです。まだ喋れませんが、こちらの言葉はかなり通じているようで、ために「ゆうしんくん、お父さんお着がえするけど、一緒にくる？」と聞いてみました。すると長男は少し考えてからだまって立ち上がり、すたすた居間を出て、廊下を歩いて法衣室の前でピタッと止まり、戸をあけて入っていききました。電気もついていない暗い部屋に、こわがりもせず。ここまで聞いているのかと、幼子の吸収力に驚かされたことです。あたり前ですが、幼子は親のことばを吸収するばかりで、親のことばを吟味しようなどという力みはまったくありません。聞く、ということとは、こういうことだったなあとお教えられました。

ともに仏さまの仰せを、まことの言葉を、お聞かせいただきましょう。わが心という偽物に、力を入れずともよいのですから。